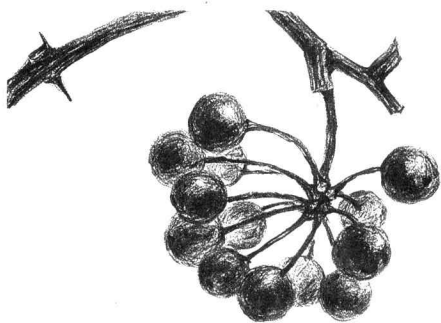


# 朝日歌壇 俳壇



〈サンキライVI〉 日高理恵子

## 短歌時評 鳳仙花とマヨネーズ

小島 なお

ズはどうだろう。

去る十月二十九日、東京都杉並区にある角川庭園にて開園十五周年記念「詩歌館まつり」が開催された。催しのひとつとして俳人の西村融さん、俳人であり歌人でもある堀田季何さんと、歌人の私で話をした。テーマは「俳句ミーツ短歌」。これは堀田さんの著書から借りてきたタイトルで、対岸の神型である俳句と短歌を合わせようという趣旨である。話題になったのが麒麟さんの句。

絵が好きで一人も好きやマヨネーズ。絵が見る（あるいは描く）のが好きであること、一人であるのが好きであること。趣味と生き方、種類の異なる「好き」が「も」で並列して語られるスレがおもしろい。秋の季語「鳳仙花」のあざやかな赤色のすこし幼いような印象が、「好きで」「好きや」の気持ちのため押しに似合っている。

「鳳仙花」が十分にいいことは前提として、歌人なら結句に何を持ってきたいか、と考えることに。たとえばマヨネーズはどうか。

絵が好きで一人も好きやマヨネーズ。収まりがいいのは当然鳳仙花である。けれど、マヨネーズのあの素材の味をすべてマヨネーズ味にしてしまう明るい強かさは、「好き」の押し強さを通うのでは、とも。型の中心へ向かって言葉やイメージが収斂してゆくの俳句なら、型をはみ出そうと拡散するのが短歌ではないかと常々思っている。

マヨネーズ案は会場で賛否それぞれの反応があったが「短歌っぽいこと。ジャンルを超えてミーツすることは「らしさ」を考慮するきっかけになる。（歌人）

正木ゆう子句集「玉響」 蛇笏賞俳人の7年ぶりの句集。「おほかたは蕾太梅のうれしさは」「対岸に水飲むきつね斑雪」「玉響のはるのつゆなり藻々」と（春秋社・2420円）高柳克弘著「NHK俳句 添削でつかむ！俳句の極意」副題は「7つのメソッドで力がつく」「感情を『もの』に託す」「瞬間を切り取る」など。（NHK出版・1650円）

☆言語野に幽けき花が一つ咲く息子が私を「お母ん」と呼んだ  
（戸田市）藤原 真理  
高倉健森繁久彌森光子行つてしまった霜月十日  
（相模原市）荒井 篤  
街なかの丸善に書を買いにゆく翡翠色のクロ  
（京都市）中川 大  
スパイクで  
（京都市）大  
御嶽山に雲の降り来てゴンドラの右に左に走る稲妻  
（名古屋市）木村 久子  
遠景に蔵王を握えて頂より白き絵の具を含ませてゆく  
（岩沼市）相澤 ゆき  
山峡の鉄路を埋める落葉踏み山嶺は慎重に走る  
（山形市）佐藤 清光  
山奥の狐ヒヤンと啼くけれど歌の中ではコロンコンと啼く  
（京都市）中尾 素子  
医療費が払えませんが泣く声に待合室はしんと静まる  
（つくば市）山瀬佳代子  
ひよどりがみずきの実を喰う雨の朝娘は小さく「ウザ」と呟く  
（東京都）阿部 真幸  
呼出しの運ぶ大きな座布団も力士の尻の下で  
（八尾市）水野 一也

【評】第一首、重度知的障害の息子さんが二十五歳になって、初めて母である作者を呼んだ場面という。第二首、三人はみな、十一月十日に他界した。第三首、梶井基次郎の小説『檸檬』の舞台として知られる京都丸善をクローズアップして印象的。

佐佐木幸綱選

高野公彦選

永田和宏選

馬場あき子選

国会も熊の被害もガザ地区もテレビは映し木枯らし一号  
（町田市）山田 道子  
☆麻酔なくスマホのライトにメス握る医師の腕には包帯巻かれ  
（中津市）瀬口 美子  
愛犬の相手しながらOHTANIは質問にたふこれ二刀流  
（三鷹市）坂本 永吉  
助手席の隙間に残る枯れ紅葉急いで去り秋の抜け殻  
（尾道市）森 浩希  
歯医者にてオフコースの曲流れ来て昔を旅する口開けたまま  
（京都市）赤見坂千春  
老犬に引かれ老人歩みゆくふたつの影を包む夕光  
（福島市）美原 凍子  
角打ちの酒屋も湯屋もなくなり表情薄き冬の町並み  
（観音寺市）篠原 俊則  
朝早くチェーンソーの音聞こえ来る後継者なき林檎園より  
（五所川原市）戸沢大二郎  
帰り道目が追っていたマッシュヘア音信不通の君を探して  
（朝霞市）岩部 桃香  
右手より冷たい母の左手を揉んであげたり擦ったりしたり  
（八千代市）砂川 壮一

【評】一首目、世間でさまざまな事が起こり、そして季節も移り変わる。まさに現世は生生流転。二首目は、過酷な現実に向かい合うガザ地区の病院内の光景。三首目、大谷翔平は自宅でインタビューを受ける時も二刀流、という楽しい歌。

溪に入り小さな橋にかかるとき約束していた風と出会えり  
（神戸市）山下 正弘  
まっくらになっていく間のゆづれをつけも石のようにこらえる  
（新潟市）太田千鶴子  
刹那なる極楽の夢覚めれば浦島太郎に召集令状  
（柏市）藤嶋 務  
保育器を出されしガザのみどりこの生は緑布の温みのもつ間  
（水戸市）中原千絵子  
名付けられ名前前で呼ばれるはずだったガザの未熟児その後の映らず  
（八王子市）額田 浩文  
平和しか知らない子たち戦しか知らない子たち皆ママが好き  
（日田市）石井かおり  
七五三詣の宮の木漏れ日に母のある子と子のある母と  
（神戸市）松本 淳一  
哀愁と郷愁混え汽車が行く夜のサリナス大平原を  
（アメリカ）郷 単人  
諦めといふ響からは何も出ぬ底から雲を眺めてもよい  
（岐阜市）後藤 進  
二対一これが我が家の民主主義妻と娘がいつも勝つんだ  
（郡山市）寺田 秀雄

【評】山下さん、太田さん、どちらも感覚の冴えた歌。歌は意味だけではないと実感させる。藤嶋さん、そんな時代がすぐそこまで来ているか。四・五首目、ガザの新生児たちの受難は戦争の愚かさと酷さの象徴。十首目、民主主義は常に正義か？

あたたかき赤児を抱けばガザに果てしあまた幼の生命切なし  
（沼津市）佐々木みつお  
☆麻酔なくスマホのライトにメス握る医師の腕には包帯巻かれ  
（中津市）瀬口 美子  
☆言語野に幽けき花が一つ咲く息子が私を「お母ん」と呼んだ  
（戸田市）藤原 真理  
身籠りし父の出棺時雨降る職人二人木遣で送る  
（東京都）尾張 英治  
何もかも裏目に出してしまったがメロスは今ただ走るのみなり  
（広島県）中村 竜哉  
解体をする実家から我が家まで軽トラで送り仏壇運ぶ  
（東京都）村上ちえ子  
瓦礫の山にボツンと残る観覧車ガザにはもう乗る親子なし  
（京都市）森谷 弘志  
ジョン・レノンと西岡徳江お二人の今日は命日12月8日  
（アメリカ）郷 単人  
カマキリの雌雄小菊の花にいて鎌をたためる秋陽のなかに  
（館山市）大場ヤス子  
外つ国の青年の継ぎしおでん屋に隠しメニューのカレーが香る  
（光市）永井すず恵

【評】第一首は身近な乳児を抱き上げ、その温もりのいとしさから戦火の中に生まれてすぐ死を迎える赤児たちを思う。第二首も戦場の医師の苛酷な現場映像に心を刺される。第三首は発語のおぼつかなかった息子の「お母ん」に感動。